



感染症発生動向調査速報

2025年 第48週 令和7年11月24日～令和7年11月30日

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報開始値	警報値		報告週					
			開始	終息	43W	44W	45W	46W	47W	48W
インフルエンザ COVID19	インフルエンザ	10	30	10	1.33	3.33	3	1.33	1	6.67
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	1	0	0.33	1	0.33	0.00
小児科	RSウイルス感染症	-	-	-	0	0	0.5	0	0.5	0.00
	咽頭結膜熱	-	3	1	0	0	0.5	0	0	0.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	0	0.5	1	0	0.5	0.50
	感染性胃腸炎	-	20	12	0	0	0	0	0	0.00
	水痘	1	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	手足口病	-	5	2	0	0	0	0	0	0.00
	伝染性紅斑	-	2	1	0.5	3.5	1.5	2.5	1	1.00
	突発性発しん	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	ヘルパンギーナ	-	6	2	0	0	0	0	0	0.00
	流行性耳下腺炎	3	6	2	0	0	0	0	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	-	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00
	流行性角結膜炎	-	8	4	0	0	0	0	1	0.00
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	無菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症(ARI) [※]	-	-	-	3.67	3.67	5.33	3	2	8.33

※ 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

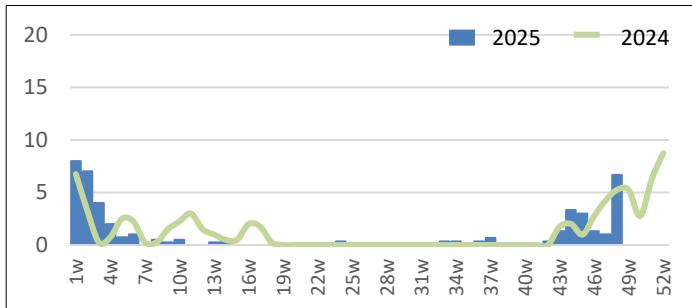


図1 インフルエンザ発生状況(定点当たり)

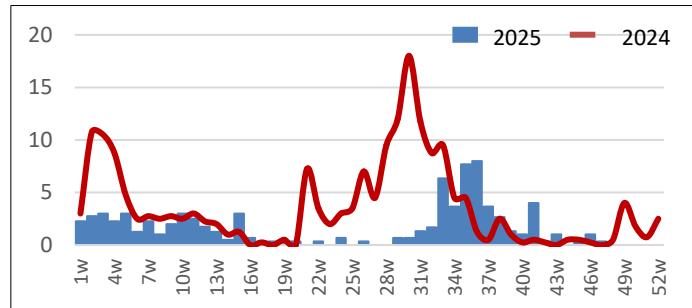


図2 新型コロナウイルス感染症発生状況(定点当たり)

【通信欄】

〈伝染性紅斑(りんご病)〉

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん(紅斑)が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

〈ダニに咬まれないためのチェック項目〉

- 雑木林・草むら・畑等に入る場合は、長袖・ズボン、足を覆う靴、帽子、手袋、首にタオルを巻くなどして、肌の露出を避けている。
- 防虫スプレーを使用している。
- 屋外活動後は、家に入る前に外で服をはたいている。
- 屋外活動後は、なるべく早く入浴し、ダニに咬まれていないか(特に、首、耳、腋の下、足の付け根、手首、膝の裏など)確認している。